

ルートは推測

20:10下山開始

おかしい?と思い  
googleマップで確  
認し、大まかな位  
置を特定。道迷い  
に気づき戻る。

スマホのライト  
を頼りに暗闇の  
中を歩く

おかしい?と思いスマホで確認。反対方向に下っていることが分かり、頂上まで戻ることになった。暗くなったため山頂の小屋でビバークを決意するも寒いので、20:10下山を開始し22:40駐車場に戻ることができた。



10回ほど滑落を繰り返しながら、大きめの岩や、なるべく頑丈そうな木の根をつかんで、GPSで方角を細かく確認しながら、少しずつ登る。18:00 一般山道へ、復帰。武甲山山頂。日はすっかり暮れた。水が飲みたい。喉が渴いた。ガマンするしかない。ちなみに食べ物も一切ない。おなかがへった。寒い。気温が下がってきている。山の下から吹いてくる、風がどんどん冷たくなっていく。気温を見る。6°Cである。19時をまわり、山頂は完全に漆黒の闇に包まれた。寒い。こんな寒さで、眠れるわけがない。

こんなところで、凍死する位なら、下りるよ！と憤りに似た気持ちが湧き起こる。スマホのライトを調べてみた。使える！22:40 武甲山登山口（一の鳥居駐車場）着。下山をはじめ、2時間半。着いた…。はあ。助かった。  
(HP参照)

「あれっ？おかしい？」と思った地点は電波が入り、このまま下山可能か検索したところ「転落事故」の文字が出てきた。山頂まで引き返した判断は冷静で正しい。しかし、3月の気温はビバーク装備が無ければ凍死の危険すらある。ヘッドライトは持っていなかったがスマホと予備バッテリーを持っていたことはラッキーだった。『根拠なく進むことが遭難への近道』である。今回の事例は、根拠ある行動のため遭難には至らなかった。必要装備を持っていなかったのはいただけでないが、参考になる事例であった。